

低線量被曝に向き合う

チェルノブイリからの教訓

人体、とりわけ子供に対する放射線の影響を、25年間におよぶ研究現場から最新の研究成果を日本に紹介します



Y. ステパーノヴナ
ウクライナ国立放射線医学
研究所 小児放射線部長/
国際リスク分析委員会委員



M. マリコ
ベラルーシ科学アカデミー
主任研究員/
欧州放射線リスク委員会委員

コメンテータ 今中哲二 京都大学原子炉実験所

日時: 4月21日(土) 14時~18時

場所: 東京大学弥生講堂(本郷キャンパス)

資料代: 1,000円(一般) 500円(学生)

どなたでも参加できます

地下鉄南北線東大前駅徒歩1分/千代田線根津駅徒歩8分

<http://www.a.u-tokyo.ac.jp/yayoi/map.html>

連絡先: 東京大学東洋文化研究所 長沢研究室

電話: 03-5841-5887

email: nagasawa@ioc.u-tokyo.ac.jp

- 共催 ● 市民と科学者の内部被曝問題研究会
● 北海道大学 GCOE 境界研究の拠点形成
● 東京大学「低線量被曝に向き合う」講演会
実行委員会

協賛 ● 日本科学者会議

- 協力 ● 東京大学原発災害支援フォーラム
(TGF) / 東京大学大学院総合文化
研究科「人間の安全保障」
プログラム / NIHU プログラム・
イスラーム地域研究
東京大学拠点

